

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	3873100162		
法人名	医療法人 北辰会		
事業所名	グループホーム 小松の里		
所在地	西条市小松町妙口甲1番地1 (電話) 0898-76-3838		
管理者	津島美由紀		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 2 月 7 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 17 日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 3 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 22 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	23.1 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,350 円	

(3) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 15 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性 6 名	女性 21 名
要介護 1	1 名	要介護 2	9 名
要介護 3	7 名	要介護 4	8 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 93 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い閑静な場所に建てられたホームは、敷地が広く、駐車場、中庭、共用空間はいずれも広くゆったりしており、開放感がある。利用者は、職員からの温かい声かけに笑顔で会話を交わし、和やかな雰囲気の中で穏やかに過ごしている。ユニットごとに企画する豊富な行事により外出の機会も多く、ホームの中でも役割を持ち活動的である。その張り合いのある暮らしが、利用者の明るい生き生きとした表情や来訪者を歓迎する言葉に表れている。管理者の「毎日入浴することは当たり前のこと」という言葉に、ケアの質の高さを感じられ、職員の利用者へのさりげ

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
職員が緊急時の手当てに不安を持つことがないように、職員全員が消防署の救命救急講習を随時受けている。繰り返し実習する必要性を認識しており、毎年実施していく予定である。その他、マニュアルの整理や室温管理をこまめにする等の改善に努めている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
ホームでは年2回自己評価に取り組んでおり、その都度項目を再認識できる仕組みになっている。今回も全員で自己評価し、職員一人ひとりが全ての項目について振り返りを行っている。各ユニットごとにユニット長がまとめ、全員が確認している。自己評価はいつでも見られる様、各ユニットに置いている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
前回の自己及び外部評価結果、防火対策、地域資源の把握とその活用、感染症等について話し合い、活発な意見交換をしている。特に災害対策では、過去に台風で裏山の土砂流出を経験しているため、避難場所について理解が得られるよう働きかけている。また、ホームの様子や取り組みについて報告し、地域の方からも地域行事についての情報を得、参加について検討している。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
面会時には気心の知れた利用者の担当者が日々の様子を話し、直接家族が意見等を話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、家族会を開催して気兼ねなく意見を出してもらう場を設けたり、玄関ロビーに意見箱を設置している。出された意見は真摯に受け止め、職員に申し送り、改善に努めている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
地域の奉仕活動である水路掃除に参加し、ホーム独自でも2か月に1回近隣のゴミ拾いをし、地域貢献に努めている。毎週中学生が授業の一環で来訪しており、七夕飾りやおやつ作り等で交流を深め、利用者も中学校の行事へ参加している。ホームの夏祭りに地域の方を招き、地域のボランティアの協力も得ながら地域の方との交流の場を設けている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム小松の里

(ユニット名)

東 通 り

記入者(管理者)

氏 名

伊藤 嘉奈子 (津島 美由紀)

評価完了日

平成 19 年 11 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 法人としての運営理念・グループホームの心がけはある。 (外部評価) 開設時から、法人共通の運営理念の中に「地域の人たちと交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます」という項目があり、地域密着型サービスとしての役割を十分認識している。さらに、心がけとして「温かく、さりげなく、気くばり、目くばり」というホーム独自の運営理念に相当するものを作っている。	※	スタッフ全員が「心がけ」を胸に持ち、同じ方向性で介護していける取り組みを志す事。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 各ユニットの事務所の目に付く場所に掲示しているが、全員がこの気持ちで出来ているかはわからない。 (外部評価) ホームとしては、独自の心がけを運営理念として捉え、「温かく」「さりげなく」「気くばり」「目くばり」の4つについて、どのようなケアが該当するか職員一人ひとりが具体的に考え、書き出し、理解を深めている。また、朝・夕の申し送り時に復唱することで心に留め、利用者に寄り添う温かい接し方を心がけている。	※	全員が同じ気持ちでケアに努めていける様取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 入所時に説明しており、運営推進会議などで話している。	※	運営推進会議にいろんな方々に参加して頂き、理解に取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) ホーム周辺の道などで会った時、笑顔で挨拶声かけが出来るよう努めている。	※	スタッフ全員が出来るよう取り組む。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の中学校の運動会・文化祭などに参加し、広報誌を配布したり、行事時(夏祭り)などには案内状を出し、参加して頂ける様呼びかけている。 (外部評価) 年5回発行の広報誌や夏祭りの案内状を地域の方に配布し、ホームの様子を知ってもらい、夏祭りへの参加も多い。地域の奉仕活動やホーム独自のゴミ拾いを通じて地域貢献に努めている。毎週中学生が来訪することを楽しみにしており、一緒に活動し交流を深めることで、ホーム外で会っても挨拶を交わすような関係ができています。	※	運営推進会議などでお願ひし、地域活動にもどんどん参加出来る様努める。 ホームは地域とのつきあいを深めていくよう、運営推進会議も活用しながら積極的に取り組んでいる。民生委員だけでなく、近隣の方が気軽に立ち寄り、利用者と話したりお茶を飲んだりするような日常的なおつきあいが出来るよう工夫していくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1度、周辺の道の「ゴミ拾い」を行っている。	※	散歩に出た際は、常にゴミ拾いが出来る支援を支援をしていきたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全員が理解し、評価を活かせるところまではいっていない。 (外部評価) サービス評価の意義を理解し、ホームでは年2回自己評価している。項目を一つ一つ読み、自己評価することで理解も深まり、振り返りのよい機会になっている。各ユニットで取組みたい内容は異なるが、それぞれ職員間で共有している。前回の外部評価結果について、改善に向けて救命救急講習会を全員で受講する等サービスの質の向上に努めている。	※	評価を受け止め、全員が活かせる様取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) まだ2回しか実施出来ていないため、十分にサービス向上に活かしていない。	※	運営推進会議の中で十分な話し合いを行い、サービス向上に向けた取り組みをしていきたい。
			(外部評価) 参加メンバーの日程調整が難しく、予定通りの開催にはなっていないが、地域の情報を得て、地域行事の敬老会や奉仕活動に参加している。災害時の対策について等活発な意見交換もされている。参加メンバーも介護相談員等、徐々に増えている。来年度は議題の年間計画を立て、円滑な運営ができるよう工夫する予定である。	※	次回は警察官に参加してもらうことを計画している。このように、毎回出席してもらいたい方に加え、年間行事の議題に合わせて消防団、近隣の方、中学校の先生等参加メンバーを工夫し、会議がさらに実りあるものになることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 十分な連携はまだ取れていないが、今月より介護相談員の方の来訪があるため、そこからサービスの質の向上につなげる。	※	連携を深める努力をしていく。
			(外部評価) 市から月1回介護相談員が来訪し、利用者の思いや悩みを聴いている。「ゆっくり買い物に行きたい。」という要望を教えてもらい、改善に活かしている。書類の提出時に市担当者とは顔見知りになり、分からないことは電話で相談できる関係にある。地域包括支援センター職員に広報誌を配り、ホームの理解を得るよう働きかけている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などへの参加をする機会を設けており、資料などを玄関ロビーに置き、活用出来る様にしている。	※	必要な人には、活用できる支援をしていく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日々注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約時に十分な説明を行っており、面会などの時に尋ねられた時には応えられるよう努めている。	※	その都度の対応で理解や納得を図る。
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 十分には機会を設けられていない。	※	心がけ・ケアに努める事によって解消して頂けるよう努力する。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月1回の日常生活報告書にて知らせたり、面会時に話をするようにしている。 (外部評価) 家族と直接話す機会を少なくとも月1回は設けるため、利用料を現金集金にしている。家族の面会時には、担当者が利用者の暮らしぶりについて報告し、介護計画に反映させられるよう要望を聞いている。年5回発行の広報誌には利用者の活動の様子を分かりやすく掲載し、新入職員の紹介もしている。さらに手紙でも詳しく知らせている。	※	日常生活報告書にはケアプランの報告も入れている。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談窓口を設けており、玄関ロビーには意見箱を設置してある。 (外部評価) 意見箱を設置しているが、なるべく直接話してもらえよう、面会時には担当者が声をかけている。「食事の時、音楽を流したらどうか。」という意見を取り入れる等、運営に活かしている。年1回の家族会でも意見が出せるようにし、併せて第三者機関の苦情相談窓口も紹介し、玄関ロビーにパンフレットを置いている。	※ ※	申し送りなどで報告し、しっかりと受け止め、解消する努力をしている。 現在、家族会は敬老会の後に開いている。他にも家族が参加する行事が年に数回あるため、その際に家族同士で話し合えるよう、できるだけ多くの機会を設けていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に機会を設けているわけではないが、いつでも意見を聞いてもらえる環境である。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 出来ている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 運営上の都合での移動はあるが、必要最小限には配慮出来ていると思う。 (外部評価) やむを得ない理由によりユニット間の異動や離職はあるが、日常的にユニット間での行き来があり、他ユニットの利用者と話すことも多く、担当者以外の職員とも顔馴染みの関係にあるため、今のところ利用者にダメージは見られていない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 2ヶ月に1度のホーム内での勉強会や、段階に応じた研修の参加を行っており、独自での研修案内なども提示し、育てる取り組みが出来ている。 (外部評価) 管理者と主任が県社会福祉協議会の研修内容を見て、職員の育成のため、段階に応じた研修の年間計画を立てている。関連グループ内での勉強会にも参加している。ホーム内でも2か月に1回、ユニット持ち回りで勉強会を開いている。勉強会は、外部研修を受けた職員の報告会も兼ねている。運営者は、研修に参加し易い体制を整備している。	※	自ら進んでいくような研修の呼びかけや、働きながら吸収できるよう個々で努力する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 母体の病院での他施設との共同勉強会や、行事の際にお互いの施設の交流を行っている。 (外部評価) 関連グループ内の勉強会が月1回開かれ、同業者との交流の機会がある。また、県グループホーム連絡協議会の東予支部の研修や県社会福祉協議会の研修等外部研修に出かけた際にも他事業所の職員と情報交換している。	※	ホームは県グループホーム連絡協議会の相互研修への参加を検討している。関連グループ以外の事業所との交流により、自身のケアのあり方を振り返り、他事業所の取り組みを知る機会が得られることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 休憩場所などの空間は作られているが、休憩出来ていないのが現状。	※	時間をずらして休憩をとるよう、スタッフ同志の意識と協力が必要。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 努められている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 受け止める努力をしている。	※	利用者の話を傾聴し、少しでも満足して頂けるケアに努める。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 受け止める努力をしている。	※	本音が聞ける雰囲気を作る努力がもっと必要。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の思い、様子などを考慮しながら対応に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 徐々に馴染める雰囲気作りに努めている。 (外部評価) サービスを開始する前に、利用者宅を訪問している。本人や家族に見学に来てもらったり、ホームの行事に誘ったりしてホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。また、入居後1か月ぐらいは特に目配りし、利用者が新しい生活に慣れるまで、安心して生活できるよう家族に度々面会に来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 行事などでの触れ合い、会話などの中から関係作りをし、築いている。 (外部評価) 煮物の味付けや戦時中の話など、利用者から教わることも多い。昼食時、冗談を交えながら楽しく会話し、職員と利用者が笑いあっている場面があり、日々の暮らしの中で感情を共有する場面が多いことが推察された。利用者がいるだけで心が癒されると語る職員からは、支えあう温かい関係が感じられた。	※	一方方向の関係ではなく、双方向の関係作りを行うよう努力する。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 信頼関係が保てるよう、その都度連絡をし、報告している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) より良い関係が築いていけるよう努めている。	※	笑顔と元気の良い挨拶で迎え、お茶などの接待を家族と話しやすい状況の支援を実施。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも面会に来て頂ける雰囲気・接待・電話などの支援をしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 気の合った者同士の席や、うまく皆と関わりが持てるよう努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 病院などで入院し、退所になった方にも面会に行ったりしているが、家族との交流はあまり持っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ユニット会などで話し合い、本人の希望や意向を考慮しながらプランに取り入れている。 (外部評価) 暮らしの中での会話を多くし、利用者の思いや意向を把握している。把握した思いや意向は、日々の記録とは別に作られたオンリーワンメモに記録し、職員間で共有している。また、センター方式のアセスメントシートへ転記、蓄積している。本人からの把握が難しい場合は、家族、ケアマネジャー等利用者のことを知る関係者から情報を得ている。	※	これからも相手の立場になって何が必要か、良いかを考えてケアしていくよう努める。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ユニット会などで、話し合いを行ってはいるが、把握に至っていない。	※	カンファレンスを行う時間を設け、一人一人の望んでいる事を把握し、ケアにつなげていく。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) センター方式を取り入れているが、活用できていない。センター方式の活用を努め、把握につなげていく必要がある。	※	センター方式の活用。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会などで職員同士が話し合い、ケアの課題を見つけ、介護計画を作成している。家族には面会時などに説明し、同意サインをもらっている。 (外部評価) 担当者が本人との会話から把握した意向や家族の要望を聞きながら、利用者本位の介護計画を立てている。それを基に、月1回のユニット会で意見を出し合い、最終的に各ユニットの計画作成担当者が介護計画を作成している。さらにより本人本位の介護計画になるよう、センター方式を取り入れている。	※	本人や家族のアイデアを出してもらい、満足して頂けるようなケアに努めていかなければならない。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月1回ユニット会で見直し、変化が生じた場合は新たな計画を作成している。必要な時は関係者の意見も取り入れ、本人・家族に了解をとっている。 (外部評価) 毎日モニタリングし、介護計画の課題を評価し、ケア行動計画・チェック表に記録している。また、ケアに関わった職員がケア行動計画実施記録・特記事項に書き、見直しに活かしている。状態変化が生じた場合は、月1回のユニット会で話し合い新たな介護計画を作成している。変化が見られない時は、3～6か月継続している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々記録しているカルテやオンリーワンメモを活用し、実践や介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 柔軟な対応をしている。 (外部評価) 買い物、友人に会う、家に帰る等、利用者一人ひとりの要望に応じ、できる限り柔軟な支援をしている。特に、帰宅願望のある方には週1回帰宅できるよう支援している。帰宅中はこまめに電話で本人の様子や気持ちを確認している。他にも通院介助やドライブ、図書館の利用支援、銭湯での入浴等様々な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 近隣の中学校の教育の一貫である小松タイムや防災訓練・老人会などの支援を受けている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要な時はケアマネにも相談し、他の事務所などの支援をしてもらっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとの協働はできていない。	※	協働していく事が必要。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医往診・受診の支援をいっている。 (外部評価) 利用者の馴染みの医師との関係が続くよう、町内の複数の病院と協力体制を築いている。週1回の往診の他に、病気等で受診する場合は家族に電話報告した上で受診介助している。遠方の病院に受診するような特別な場合は家族に同行してもらっているが、スムーズに受診できるよう情報交換を的確に行っている。誕生日の健康診断も行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 母体病院の医師の往診や、個々の主治医に相談したり、診断・治療が受けられる体制である。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) ホーム長も看護師であり、スタッフの中にも看護師がいるため、その都度相談でき、日常の健康管理の交流も出来ている。	※	毎朝と個々に応じてバイタルチェックをしている。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 情報交換や相談を常に行っており、連携している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) ターミナルケアは実質的に行っていない。 (外部評価) ホームでは、利用者一人ひとりの持てる力を発揮できるよう、役割を持って共同生活を営むことを大切に考えている。また、重度化した場合、ホームの一般家庭用浴槽での入浴は困難であるため、入居前の見学の時点で、重度化した場合や終末期のケアには取り組んでいないことを説明し、本人や家族に納得してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 病気が重度になってくると、病院への入院をお願いしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 詳しく記入したサマリーなどを渡し、わからないところがあればいつでも情報交換できるよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーの確保や、個人情報の守秘義務を守っている。 (外部評価) 居室への入室の際は本人に声をかけ、了承を得ている。また、本人が思っていることを否定せず、上手に話を合せている場面が見られた。ホームページや広報誌へ利用者の写真や名前が載ることについては、家族から同意を得ている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 可能な限り入居者が暮らしやすい支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切にするよう心がけてはいるが、業務優先となり、入居者のペースを乱している場面もある。 (外部評価) 活動的なホームで、毎週のようにユニットごとに特色のある行事を実施しているが、体調等で参加したくない利用者には無理強いをせず、他ユニットの職員の協力を得て、休んでもらっている。日当たりの良い場所で居眠りする、玄関先で草引きをする、移動パン屋のパンを買う、家族と玄関で話すなど、それぞれ自分のペースで過ごしている。	※	第一に入居者の思う気持ちで仕事・ケアに努めていくよう取り組む。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望で近所の理容・美容店に来て頂いている。	※	本人が店に行きたいという希望があれば支援していく。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 全員と一緒にとまではいかないが、一緒に準備や片付けを行っている。 (外部評価) 一緒に食事の下ごしらえや片付けをし、会話を楽しみながら自分のペースで食事している。中庭の畑で利用者が収穫した野菜を食材にしたり、希望する外食に出かけたり、中庭でバーベキューを楽しんだりしている。また、おせち料理や七草粥等行事食を出し、季節感を味わってもらう工夫をしている。好みにも配慮し、調理法を工夫している。	※	できる方や、台所仕事が好きの方には一緒に行える支援をし、本人の希望の食事を取り入れながら支援していく。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表で一人一人の排泄パターンを把握し、その人に合った支援をしている。	※	声かけのトーンに十分注意しながらの支援を実施していく。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日の声かけ、入浴の支援は出来ている。 (外部評価) 基本的に毎日入浴できるよう支援している。また、入浴の時間帯は午後の暖かい時間・夕方・夜・就寝前と希望に応じている。浴槽がゆったりしており、仲の良い利用者同士で入浴することもある。入浴拒否のある方にはタイミングを見て声をかけたり、ドライブに誘って銭湯を利用するなど、強要しないで入浴してもらおうよう支援している。	※	何度声かけしても入ってもらえない入居者の支援に困っているが、タイミングを図って協力しながら行っていく。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の状態や状況に合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人一人の暮らしを大切にしながら、その人にとって心地よい言葉かけに努め、楽しく過ごせるよう支援している。 (外部評価) 食事の下ごしらえ、食器洗い、配膳、洗濯物干し・たたみ、金魚の餌やり、買い物、野菜の収穫、草引き等、利用者ができることを見極め、役割を持つことで生き生き過ごせるよう支援している。花見、歌謡ショー、ゲートボール大会等のホーム全体の行事に加え、ユニットごとに楽しみごとを企画し、外食、レクリエーションを楽しんでいる。	※	本人が。好んでいる支援を行い、穏やかに過ごせる日々を作っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 管理できる入居者には支援している。その他の入居者に対しては一緒にいき、支払いなどはスタッフがやっている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望があれば買い物や外出を実施し、月1回程度外食に全員でいけるよう支援している。 (外部評価) 日光浴も兼ねて毎日のように広い中庭に出ている。冬場は、寒さのため利用者が散歩を休んでいるが、気候のよい時は近くの体育館までが散歩コースになっており、車いすの方も一緒に散歩に出かけている。また、食材の買い出しに行ったり、ドライブも楽しんでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ホーム近くであれば可能だが、遠距離では困難であるのが現状。	※	支援できるよう努力していきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があればいつでも電話をかけられるよう支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも訪問でき、快い挨拶や接待の場所を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。	※	言葉かけにも十分注意し、その人を思いやる心で接する事を忘れないケアをしていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) (外部評価) 外出傾向のある利用者が外出したくなる時は様子を見て察知できるため、記録等の事務を利用者の側で行い、台所も対面式で見守りができるよう工夫している。外出時は利用者の気持ちを尊重し、納得のいく支援をしている。利用者の行動パターンを十分把握し、玄関を出てから玄関先の草引きに気が変わる利用者をさりげなく見守る場面があった。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に入居者の居場所の確認と様子を把握し、安全に配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個々に応じて危険と思われる物でも、針・ハサミ・カミソリなどは持ってもらい、注意し見守りを行っている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 勉強会などで勉強したり緊急時対応マニュアルを作成しており、事故防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救急救命講習などに全スタッフが参加している。	※	定期的に取り入れている。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防所の協力を得て防災訓練や避難訓練などを年2回は実施している。運営推進会議の際にも災害時の対応をお願いしている。 (外部評価) 消防署とホームの自衛消防隊による消防訓練をしている。災害時のマニュアルに沿って夜間も想定して利用者と一緒に実施している。避難場所は地域福祉センターになっており、今までにも市に受け入れ要請して台風時に2回利用している。運営推進会議で災害対策について議題に取り上げ、地域の人と意見交換し、再確認している。	※	近所には地域の消防団長もいるので、運営推進会議に出席してもらおう等して地域の協力が得られるような体制づくりをしていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックや入浴時の体の観察を共有し、対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や用法など、すぐに確認出来るようにファイルに閉じており、症状の変化の確認に努めている。服薬時、最後まで見守り確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、個々の状態に合わせてセンナ茶で調整したり、体を動かすよう体操を取り入れるといった工夫をしている。	※	排泄チェック表に記載している。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分チェック表に記録し、状態に応じてその人の好みの飲み物などを出し、水分確保の支援をしている。 (外部評価) 水分量を時間ごとに細かくチェックして記録している。水分量を確保できるよう、汁物・お茶・排便を促すセンナ茶等を出している。食事は主食と副食に分けて毎食摂取量を記録している。また、嚥下機能の低下している方には刻み食を提供している。嚥下機能の維持向上のためリハビリ体操を熱心に行っている。	※	水分チェック表に記録している。 10日分の献立をあらかじめ立てておく等、栄養バランスにも配慮しているが、年に2～3回は栄養士にチェックしてもらい、専門的な立場からアドバイスを受けることを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) ペーパータオルを使用し、消毒液でテーブル拭き、手の消毒などを実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 調理後前の手洗いの徹底、まな板・ふきんの消毒を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた飾り物などを置いており、重圧感のない玄関扉にし、明るい玄関になっている。	※	玄関前に植物を植え、工夫したい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ユニット入り口には入居者の写真を展示、リビングには手作りカレンダー、台所は対面式で、足を伸ばして据われる和室もあり、快適な空間作りがされている。 (外部評価) 玄関ロビーに雛人形が飾られ、書初めや手作りカレンダーも季節感を出している。ユニット入口に掲示している行事の写真を見て、楽しかった思い出を話題にしている。畳コーナーにはコタツが置かれ、くつろいだり、洗濯物をたたんだり、演芸ボランティアの舞台としても使われている。男性利用者用に使い易い便器も設置している。	※	もっと季節感を味わえる花などを取り入れた空間作りを実施していきたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ウッドデッキや中庭にはベンチがあり、ゆっくりと思思いに過ごせる居場所を設けている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が使っていた馴染みの物や好みの物（タンス・仏壇・テレビ・冷蔵庫・机など）を持参してもらい、居心地良く工夫されている。 (外部評価) 仏壇、ドレッサー、筆筒等使い慣れたものを持ち込み、家族の写真やゲートボール大会の賞状を飾っている。冷蔵庫を置いて好きな飲み物を入れている方、転倒防止のため床布団にしている方等、それぞれに合った居室になっている。居室で安全に過ごせるよう、多くなりすぎた衣類をホームで管理する等整理整頓に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 24時間換気があり、10時、15時、20時に温度チェックをし、個々の居室は個々に合った温度調節をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ホーム内はバリアフリーになっており、手すりなどの設置により自立歩行も安全に出来るよう工夫されている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 見やすい場所に時計を設置し、自分の居室がわかりやすいように名前・写真入りの色紙を貼ったり、便所も表示している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ウッドデッキや中庭にはベンチを設けており、日光浴や外気浴を楽しめるようになっている。ゲートボール場を作っており、外でも楽しく活動できるスペースとなっている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらい 評価) ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	日常生活の会話の中から本音が出てくる事もあるが、完全には理解できていない。自宅で暮らしたいと思いつつここで生活している入居者がほとんどと思っており、そんな気持ちを理解した上で出来る限りの介護をし、楽しみ・生きがいを持っていただき、満足していただけるような支援に努めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	職員の人数不足もあり、ちゃんとした時間をとってゆったりと過ごす事はなかなか出来ていないが、毎日のレクリエーションやお茶の時間などに話をしたり、一緒に過ごすという事を意識し、場面作りに努めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	居室でゆっくり過ごす、他の入居者と談話して過ごす、仕事だと言われ草引きをする、買い物に行きたい、という感じで個々のペースで過ごされている入居者がほとんどだが、意思を伝える事が困難な入居者もいる。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	全員とまではいかないが、「お世話になりました」「有難うございました」などの言葉を言われている時の表情(笑顔・嬉しさのあまり涙目に)を見れた時は、生き生きされているように感じる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	自己主張が強く、戸外に行きたい所へ行かされている入居者もいるが、ほとんどの入居者は「ここへ行きたい」とか「どこかへ行きたい」という意思表示はしてもらえず、職員で決めた場所へ行く。出かけた事は喜ばれているが決まっている事だから行くだけという風にも感じられる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	ホーム長ともう一人の看護師がいることで、いつでも相談でき、安心感が持てているし、主治医の往診やその都度病院受診を行える体制になっている。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	日々の状況に応じて対応する事により、安心して生活する事が出来ている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	家族から言ってもらえるよう努め、声かけや報告をしているが、不利な事や求めている事はあまり耳にしないように思う。信頼関係がまだまだ薄く言い出せていないだけかも知れない。「要望があれば伺いたい」と伺うと「もう穏やかに過ごさせてくれれば十分」と言われる家族が多い。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	数名の利用者のところには友人や知人の面会が見られたり、以前に働いていたスタッフが訪ねて来てくれる事があるが、地域の人々が訪ねて来られる事は少ない。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	行事（夏祭り）などに来てくださる方が増えている。帰宅願望のある入居者が外へ出て行かれたりすると、見守りや声かけて下さる方が多くなっている。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き活きと働いている職員もいるが、ストレスが溜まっているように見受けられるスタッフや意欲の無さが態度に出ている職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	「ここに居ると美味しい物が食べられる」「面倒もみってくれる」など具体的な言葉を発する入居者もいるし、その時々での喜びや、楽しんでいただける声や表情が見られると満足していただけているかなと思える。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時の表情を見て満足して頂けているのではないかなと思えるが、面会のない家族の思いはわからない。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・広報誌の配布や、地域行事への参加（運動会、文化祭、祭り）などを通して、地域住民との交流を図っている。
- ・各ユニット毎で外出、外食の機会を設けている。
- ・季節に応じたおやつ作りや行事などを取り入れている。（行事によっては家族にも参加してもらい、一緒に過ごす時間を喜び、楽しんで頂けている）
- ・個々に見合ったケアプランを作成、実施している。
- ・毎月家族に日常生活報告書を送付している。（食事、入浴、排泄、健康、行事参加の様子、ケアプラン実施状況、日常の様子を記載）
- ・個々のアルバム写真を作成している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム小松の里

(ユニット名) 西 通 り

記入者(管理者)
氏 名 黒川 夕佳 (津島 美由紀)

評価完了日 平成 19 年 11 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 理念があり、名札の裏に記載してあり、いつでも目を通せる。 (外部評価) 開設時から、法人共通の運営理念の中に「地域の人たちと交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます」という項目があり、地域密着型サービスとしての役割を十分認識している。さらに、心がけとして「温かく、さりげなく、気くばり、目くばり」というホーム独自の運営理念に相当するものを作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 目に付くところに掲示してあり、日々努力している。 (外部評価) ホームとしては、独自の心がけを運営理念として捉え、「温かく」「さりげなく」「気くばり」「目くばり」の4つについて、どのようなケアが該当するか職員一人ひとりが具体的に考え、書き出し、理解を深めている。また、朝・夕の申し送り時に復唱することで心に留め、利用者に寄り添う温かい接し方を心がけている。		理念を理解しているかどうか再認識は必要だと思われる。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 目に付くところに（ロビーやユニットの掲示板）に掲示してあるためわかりやすくなっている。 また、家族会や運営推進会議を通して説明、理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 広報誌や行事への案内状の配布を行っている。 明るく挨拶を心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 近隣の中学校、地域住民との交流は行事ごとを通じてみられている。 ホーム独自の奉仕活動も2ヶ月に1回行っている。 (外部評価) 年5回発行の広報誌や夏祭りの案内状を地域の方に配布し、ホームの様子を知ってもらい、夏祭りへの参加も多い。地域の奉仕活動やホーム独自のゴミ拾いを通じて地域貢献に努めている。毎週中学生が来訪することを楽しみにしており、一緒に活動し交流を深めることで、ホーム外で会っても挨拶を交わすような関係ができています。	※	ホームは地域とのつきあいを深めていくよう、運営推進会議も活用しながら積極的に取り組んでいる。民生委員だけでなく、近隣の方が気軽に立ち寄り、利用者と話したりお茶を飲んだりするような日常的なおつきあいができるよう工夫していくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 近隣住民の方々には広報誌や、夏祭りの案内状を配布したりと立ち寄る方々もいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全ての職員が半年に1回自己評価を行っている。 外部評価も理解しており、改善に取り組んでいる。 (外部評価) サービス評価の意義を理解し、ホームでは年2回自己評価している。項目を一つ一つ読み、自己評価することで理解も深まり、振り返りのよい機会になっている。各ユニットで取組みたい内容は異なるが、それぞれ職員間で共有している。前回の外部評価結果について、改善に向けて救命救急講習会を全員で受講する等サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に会を持ち、意見を出し合っている。 (外部評価) 参加メンバーの日程調整が難しく、予定通りの開催にはなっていないが、地域の情報を得て、地域行事の敬老会や奉仕活動に参加している。災害時の対策について等活発な意見交換もされている。参加メンバーも介護相談員等、徐々に増えている。来年度は議題の年間計画を立てて、円滑な運営ができるよう工夫する予定である。	※	次回は警察官に参加してもらうことを計画している。このように、毎回出席してもらいたい方に加え、年間行事の議題に合わせて消防団、近隣の方、中学校の先生等参加メンバーを工夫し、会議がさらに実りあるものになることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。 (外部評価) 市から月1回介護相談員が来訪し、利用者の思いや悩みを聴いている。「ゆっくり買い物に行きたい。」という要望を教えてもらい、改善に活かしている。書類の提出時に市担当者とは顔見知りになり、分からないことは電話で相談できる関係にある。地域包括支援センター職員に広報誌を配り、ホームの理解を得るよう働きかけている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受けて学んでいる。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や、ホームの勉強会で学び、対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者により、十分な説明を行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図ることで心情の理解に努めている。 面会者（親類、知人）があれば個室へ案内し、話しやすい場作りをしている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、一ヶ月の様子を手紙に書いて家族へ報告している。 また、面会時には必要なことを伝えるようにしている。 (外部評価) 家族と直接話す機会を少なくとも月1回は設けるため、利用料を現金集金にしている。家族の面会時には、担当者が利用者の暮らしぶりについて報告し、介護計画に反映させられるよう要望を聞いている。年5回発行の広報誌には利用者の活動の様子を分かりやすく掲載し、新入職員の紹介もしている。さらに手紙でも詳しく知らせている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設けており、苦情や意見など受けた際には、改善に努めている。 (外部評価) 意見箱を設置しているが、なるべく直接話してもらえよう、面会時には担当者が声をかけている。「食事の時、音楽を流したらどうか。」という意見を取り入れる等、運営に活かしている。年1回の家族会でも意見が出せるようにし、併せて第三者機関の苦情相談窓口も紹介し、玄関ロビーにパンフレットを置いている。	※	現在、家族会は敬老会の後に開いている。他にも家族が参加する行事が年に数回あるため、その際に家族同士で話し合えるよう、できるだけ多くの機会を設けていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は職員の意見を聞いてくれている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 対応、調整できている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 管理者により、ユニット間の異動が行われているが充分考慮していると思う。		
			(外部評価) やむを得ない理由によりユニット間の異動や離職はあるが、日常的にユニット間での行き来があり、他ユニットの利用者と話すことも多く、担当者以外の職員とも顔馴染みの関係にあるため、今のところ利用者にダメージは見られていない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種研修を受けており、2ヶ月に一度の勉強会で研修報告も取り入れ皆で共有している。 (外部評価) 管理者と主任が県社会福祉協議会の研修内容を見て、職員の育成のため、段階に応じた研修の年間計画を立てている。関連グループ内での勉強会にも参加している。ホーム内でも2か月に1回、ユニット持ち回りで勉強会を開いている。勉強会は、外部研修を受けた職員の報告会も兼ねている。運営者は、研修に参加し易い体制を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修へ参加することにより、他事業所の人との交流を図っている。 (外部評価) 関連グループ内の勉強会が月1回開かれ、同業者との交流の機会がある。また、県グループホーム連絡協議会の東予支部の研修や県社会福祉協議会の研修等外部研修に出かけた際にも他事業所の職員と情報交換している。	※	ホームは県グループホーム連絡協議会の相互研修への参加を検討している。関連グループ以外の事業所との交流により、自身のケアのあり方を振り返り、他事業所の取り組みを知る機会が得られることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 希望者参加のスポーツクラブの設置 スタッフ間が何でも話せる仲であるように思う。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修への参加など、勉強できる機会を作ることで、各自が向上心を持てるよう考慮されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前に、本人と面接しじっくりと話を聞いている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前に、本人と面接しじっくりと話を聞いている。本人と家族も同席してもらい、話を聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居判定を行う際には当ホームへの入居適応であるかどうかの見極めは行っている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居後には徐々に生活に馴染めるよう、本人とコミュニケーションをとりながら配慮して支援している。 家族と話せる機会には、こちらから相談する事もある。 (外部評価) サービスを開始する前に、利用者宅を訪問している。本人や家族に見学に来てもらったり、ホームの行事に誘ったりしてホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。また、入居後1か月ぐらひは特に目配りし、利用者が新しい生活に慣れるまで、安心して生活できるよう家族に度々面会に来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 共に一緒に過ごす中で、入居者に教えられる事や、助けてもらう事がある。支えあう関係を築けているように思う。 (外部評価) 煮物の味付けや戦時中の話など、利用者から教わることも多い。昼食時、冗談を交えながら楽しく会話し、職員と利用者が笑いあっている場面があり、日々の暮らしの中で感情を共有する場面が多いことが推察された。利用者がいるだけで心が癒されると語る職員からは、支えあう温かい関係が感じられた。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事への参加を呼びかけ、共に過ごす時間を作るよう支援している。また、面会時に会話するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 面会時には話す機会があるが、来れない家族には月1回の手紙に近況報告又は来荘を期待した文を添える事もある。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居されてからの支援になっている。	※	本人が望めば考えてみたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 関係は把握できており、問題が起きれば職員が中に入り対応している。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他施設や病院などに移動になった場合、面会には行くが、職員の個人的な行動になっている。	※	取り組んでいけるよう考えたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個々の事を考えたケアができるよう月1回、スタッフ間で話し合っている。 (外部評価) 暮らしの中での会話を多くし、利用者の思いや意向を把握している。把握した思いや意向は、日々の記録とは別に作られたオンリーワンメモに記録し、職員間で共有している。また、センター方式のアセスメントシートへ転記、蓄積している。本人からの把握が難しい場合は、家族、ケアマネジャー等利用者のことを知る関係者から情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居面接時に家族からの聴き取り、本人の確認など、その都度聞きながら対応している。	※	センター方式を活用しているものの経過など十分に記録できていないため、取り組んでいけるよう考えたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) ケアプランで毎日の家事仕事を役割化していたりと、個人に合った充実した生活が送れるよう支援し、心身状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のユニット会で全員のケアを話し合い計画を実施している。 (外部評価) 担当者が本人との会話から把握した意向や家族の要望を聞きながら、利用者本位の介護計画を立てている。それを基に、月1回のユニット会で意見を出し合い、最終的に各ユニットの計画作成担当者が介護計画を作成している。さらにより本人本位の介護計画になるよう、センター方式を取り入れている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 毎日見直しを行いスタッフ間で検討している。 (外部評価) 毎日モニタリングし、介護計画の課題を評価し、ケア行動計画・チェック表に記録している。また、ケアに関わった職員がケア行動計画実施記録・特記事項に書き、見直しに活かしている。状態変化が生じた場合は、月1回のユニット会で話し合い新たな介護計画を作成している。変化が見られない時は、3～6か月継続している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録、ケアプランの実施記録を毎日記入しており、情報の共有はできている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り努力していると思う。 (外部評価) 買い物、友人に会う、家に帰る等、利用者一人ひとりの要望に応じ、できる限り柔軟な支援をしている。特に、帰宅願望のある方には週1回帰宅できるよう支援している。帰宅中はこまめに電話で本人の様子や気持ちを確認している。他にも通院介助やドライブ、図書館の利用支援、銭湯での入浴等様々な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアに来てもらったり、訓練の時などは消防署の協力を得ている。民生委員の定期的な訪問や、図書館の利用なども行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要時行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要時のみ。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 週に1回往診があり、それ以外にも必要時には病院受診を行っている。 (外部評価) 利用者の馴染みの医師との関係が続くよう、町内の複数の病院と協力体制を築いている。週1回の往診の他に、病気等で受診する場合は家族に電話報告した上で受診介助している。遠方の病院に受診するような特別な場合は家族に同行してもらっているが、スムーズに受診できるよう情報交換を的確に行っている。誕生日の健康診断も行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 支援できている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員が在籍しており、日々変化があれば報告、相談しながら支援できている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 病院との連携は密に行えている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) これからの課題。 (外部評価) ホームでは、利用者一人ひとりの持てる力を発揮できるよう、役割を持って共同生活を営むことを大切に考えている。また、重度化した場合、ホームの一般家庭用浴槽での入浴は困難であるため、入居前の見学の時点で、重度化した場合や終末期のケアには取り組んでいないことを説明し、本人や家族に納得してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 毎週の往診時に必要な方がいれば主治医と家族と管理者で話し、検討している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 本人が不安にならないよう環境を整えるようつとめている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 充分気を付けて対応している。 (外部評価) 居室への入室の際は本人に声をかけ、了承を得ている。また、本人が思っていることを否定せず、上手に話を合せている場面が見られた。ホームページや広報誌へ利用者の写真や名前が載ることについては、家族から同意を得ている。	※	職員同志で注意し合えるような関係作りができた ら更に良くなっていくように思う。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) できるだけ自己決定できるような働きかけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者のペースを優先できるよう支援している。 (外部評価) 活動的なホームで、毎週のようにユニットごとに特色のある行事を実施しているが、体調等で参加したくない利用者には無理強いせず、他ユニットの職員の協力を得て、休んでもらっている。日当たりの良い場所で居眠りする、玄関先で草引きをする、移動パン屋のパンを買う、家族と玄関で話すなど、それぞれ自分のペースで過ごしている。	※	気を付けてはいるが、忙しい時などスタッフのペースに巻き込んでしまう場合もあり、さらに注意を払いたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 毎日お化粧している人もいる。散髪は外部から必要時に来てくれている。身だしなみやおしゃれには気配りしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事時間はできるだけ全員揃って職員も一緒に談話しながら食事している。 準備や片付けも役割化しており共に行っている。 (外部評価) 一緒に食事の下ごしらえや片付けをし、会話を楽しみながら自分のペースで食事している。中庭の畑で利用者が収穫した野菜を食材にしたり、希望する外食に出かけたり、中庭でバーベキューを楽しんだりしている。また、おせち料理や七草粥等行事食を出し、季節感を味わってもらう工夫をしている。好みにも配慮し、調理法を工夫している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 硬いものが苦手な人には柔らかいおやつを出したり配慮している。 お酒やジュース等の預かり物もあり、欲しいときに出してあげられる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表にて個々のパターンをつかんだ対応をしている。失敗したときはすぐに取替え、気持ち良く過ごしてもらっている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入居者の体調や気分に合わせて、声かけし、入浴してもらっている。 毎日入浴できるように心がけている。 (外部評価) 基本的に毎日入浴できるよう支援している。また、入浴の時間帯は午後の暖かい時間・夕方・夜・就寝前と希望に応じている。浴槽がゆったりしており、仲の良い利用者同士で入浴することもある。入浴拒否のある方にはタイミングを見て声をかけたり、ドライブに誘って銭湯を利用するなど、強要しないで入浴してもらうよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 和室を利用し、冬場にはこたつを敷き、自由にくつろげるようにしている。 体調に応じ、安眠、休息できるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 毎月のユニット会で全員のケアを話し合い、個々のできる事に目を向けた支援又は楽しみごとを取り入れたケアができるよう努めている。 (外部評価) 食事の下ごしらえ、食器洗い、配膳、洗濯物干し・たたみ、金魚の餌やり、買い物、野菜の収穫、草引き等、利用者ができることを見極め、役割を持つことで活き活き過ごせるよう支援している。花見、歌謡ショー、ゲートボール大会等のホーム全体の行事に加え、ユニットごとに楽しみごとを企画し、外食、レクリエーションを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ホームでの立替がほとんどであるが、一部にお金を所持している人はスタッフと買い物に出かける事もある。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 食材の買出しやドライブ、散歩と無理のない程度にスタッフと出掛けている。 天気の良い日には庭に出て日光浴もしている。 (外部評価) 日光浴も兼ねて毎日のように広い中庭に出ている。冬場は、寒さのため利用者も散歩を休んでいるが、気候のよい時は近くの体育館までが散歩コースになっており、車いすの方も一緒に散歩に出かけている。また、食材の買出しに行ったり、ドライブも楽しんでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族と毎週ドライブに出掛ける方や、少人数で外食や外出する事もある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で可能な入所者には自由に使ってもらっている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問の際には気持ちよい挨拶を行っており、お茶を出し、居室やリビングなど希望の場所でゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は理解しており行っていない。 徘徊のある入居者には無理のない限り職員と一緒に歩いたり支援できている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵をかけず、玄関の出入り口には人が通るとチャイムがなるようになっている。 (外部評価) 外出傾向のある利用者が外出したくなる時は様子を見て察知できるため、記録等の事務を利用者の側で行い、台所も対面式で見守りができるよう工夫している。外出時は利用者の気持ちを尊重し、納得のいく支援をしている。利用者の行動パターンを十分把握し、玄関を出てから玄関先の草引きに気が変わる利用者をさりげなく見守る場面があった。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 常に人数の確認、所在を確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) その都度対応できている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作成しており、把握し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命救急の講習をほぼ全員受講している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を年に2回実施 避難場所の確保もできている。 (外部評価) 消防署とホームの自衛消防隊による消防訓練をしている。災害時のマニュアルに沿って夜間も想定して利用者と一緒に実施している。避難場所は地域福祉センターになっており、今までも市に受け入れ要請して台風時に2回利用している。運営推進会議で災害対策について議題に取り上げ、地域の人と意見交換し、再確認している。	※	近所には地域の消防団長もいるので、運営推進会議に出席してもらおう等して地域の協力が得られるような体制づくりをしていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 家族への説明は充分行えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェック、観察を行い記録し、共有できている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 申し送りもできしており、処方箋は目を通せる所に置いてありいつでも確認できるようにしている。 服薬時は3度の確認を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) センナ茶で対応し、便秘時には濃度で調整している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後に一人一人口腔ケアの実施し、定期的にポリデントも行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取量は記録している。 毎食時、毎おやつ時に、お茶、紅茶、ジュース等、味の変化を楽しみながら水分の補給をしてもらっている。 (外部評価) 水分量を時間ごとに細かくチェックして記録している。水分量を確保できるよう、汁物・お茶・排便を促すセンナ茶等を出している。食事は主食と副食に分けて毎食摂取量を記録している。また、嚥下機能の低下している方には刻み食を提供している。嚥下機能の維持向上のためリハビリ体操を熱心に行っている。	※	10日分の献立をあらかじめ立てておく等、栄養バランスにも配慮しているが、年に2～3回は栄養士にチェックしてもらい、専門的な立場からアドバイスを受けることを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作り実行している。 インフルエンザの予防接種は全員実施している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 定期的な消毒と食器類は毎回乾燥機に入れている。 夏場はなまものの購入はひかえている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物周辺は花や木を植え、畑作りも行っている。 玄関やロビーには季節に応じた装飾品を置いて親しみやすい環境を整えている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) カーテンの開閉、エアコンの調整、テレビ音など、その都度入居者に伺いながら調整している。 (外部評価) 玄関ロビーに雛人形が飾られ、書初めや手作りカレンダーも季節感を出している。ユニット入口に掲示している行事の写真を見て、楽しかった思い出を話題にしている。畳コーナーにはコタツが置かれ、くつろいだり、洗濯物をたたんだり、演芸ボランティアの舞台としても使われている。男性利用者用に使い易い便器も設置している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ウッドデッキや中庭又は和室など、思い思いの場所で仲良しの方と談話出来ていたりと環境には充分配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 個々で馴染みの家具や持ち物を持ち込んでいる。 (外部評価) 仏壇、ドレッサー、筆筒等使い慣れたものを持ち込み、家族の写真やゲートボール大会の賞状を飾っている。冷蔵庫を置いて好きな飲み物を入れている方、転倒防止のため床布団にしている方等、それぞれに合った居室になっている。居室で安全に過ごせるよう、多くなりすぎた衣類をホームで管理する等整理整頓に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 24時間換気を行っている。 掃除の時は窓を開け空気の入れ替えを行っている。 1日3回室内温度の確認、記録、調整をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、浴室と手すりを設置している。 台所や洗面台も使いやすい高さに作られてある。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 個人差のある中で、その人のできる事をケアプランにあげ実施している。 混乱のないようケアにつとめている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ウッドデッキを使用してオープンカフェをしたり、中庭のゲートボール場で大会を行ったりと充分活用できている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	センター方式を取り入れる中で、個々の理解に努め、スタッフ間でも話し合っている。入居されてから長く付き合ってきた方が多いので、理解してケアを行うよう取り組んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	食事時やおやつ時に共にゆったりと過ごしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	個々の思いを尊重した日々を過ごしてもらえよう支援している。その中で家事やレクリエーションをこちらからはたらきかけている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	個々を理解し生き生きとした表情や姿が引き出せるような支援をしていけるよう努めている。入居者のその日その時の気分のムラにより困難な時もある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	自ら訴える事はほとんどないため、スタッフからの働きかけにでの外出になっている。足腰の衰えにより、外出を嫌がる人の方が増えてきている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	どの病院も、毎週往診あり。建物は安全な造りになっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	安心して暮らしていけるよう支援に努めている。スタッフも人間であるため感情的になる事もあり、スタッフ間の支えあいも必要。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	入居者との信頼関係は築けていると思うが、家族の方とは面会時に限定されるため、面会の少ない方とは困難。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	行事時や定期訪問時。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民の方のホーム内行事への参加が増えてきた。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き生きと全ての職員が働けたらもっと良いホームになると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足してもらえるようなケアをしていかなければいけないと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族から感謝の言葉を聞くこともある。 苦情もあるが改善に努めているため、理解してもらえているように思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・入居者個々の毎日の記録やケアプランに沿ったケアの内容の実施、記録。
- ・オンリーワンメモの活用。
- ・毎日のレクレーションの取り組みや、各ユニットごとの外出、全体行事として、季節の行事やホーム周辺のゴミ拾い、ゲートボール大会、毎月の慰問歌謡ショーと
いろいろな行事計画を立て、楽しんでもらっている。
- ・毎日の献立や手作りおやつと工夫。
- ・毎月の家族に宛てた手紙
- ・個々の写真アルバムの作成
- ・個々の誕生日会
- ・個々の誕生日健診
- ・明るい雰囲気作りができるよう、明るい対応に努め、楽しみや喜びのある日々を送ってもらえるよう願っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	グループホーム小松の里
(ユニット名)	上 通 り
記入者(管理者)	
氏 名	愛久澤 剛史 (津島 美由紀)
評価完了日	平成 19 年 11 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 独自の理念を作っている (外部評価) 開設時から、法人共通の運営理念の中に「地域の人たちと交流を図り、入居者の暮らしが地域社会に開かれたものとなるよう努めます」という項目があり、地域密着型サービスとしての役割を十分認識している。さらに、心がけとして「温かく、さりげなく、気くばり、目くばり」というホーム独自の運営理念に相当するものを作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 名札の裏や目に付く所に掲示しており、各自実践にむけて日々取り組んでいる。 (外部評価) ホームとしては、独自の心がけを運営理念として捉え、「温かく」「さりげなく」「気くばり」「目くばり」の4つについて、どのようなケアが該当するか職員一人ひとりが具体的に考え、書き出し、理解を深めている。また、朝・夕の申し送り時に復唱することで心に留め、利用者に寄り添う温かい接し方を心がけている。		共有が必要
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を目のつくところに掲示しており、かつ、説明を求められた時は理解してもらえよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) イベント時などは地域への案内や参加で付き合いはあるが、日常的な付き合いは不十分。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の一員として、行事ごとなどを通じ、すこしづつ交流を深めている。 (外部評価) 年5回発行の広報誌や夏祭りの案内状を地域の方に配布し、ホームの様子を知ってもらい、夏祭りへの参加も多い。地域の奉仕活動やホーム独自のゴミ拾いを通じて地域貢献に努めている。毎週中学生が来訪することを楽しみにしており、一緒に活動し交流を深めることで、ホーム外で会っても挨拶を交わすような関係ができています。	※	ホームは地域とのつきあいを深めていくよう、運営推進会議も活用しながら積極的に取り組んでいる。民生委員だけでなく、近隣の方が気軽に立ち寄り、利用者と話したりお茶を飲んだりするような日常のおつきあいができるよう工夫していくことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域住民の方々には定期的な広報誌の配布や定例の行事などを通じ理解に努め、事業所として出来る力を活かしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を基に指摘を受けた事項については改善されつつある。 (外部評価) サービス評価の意義を理解し、ホームでは年2回自己評価している。項目を一つ一つ読み、自己評価することで理解も深まり、振り返りのよい機会になっている。各ユニットで取組みたい内容は異なるが、それぞれ職員間で共有している。前回の外部評価結果について、改善に向けて救命救急講習会を全員で受講する等サービスの質の向上に努めている。	※	自己評価は半年に1回実施している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 様々な意見交換や検討ができ、会を重ねるごとに参加者も増えて来ている。	※	参考になる意見はできるだけサービスに活かしつつある段階である。 次回は警察官に参加してもらうことを計画している。このように、毎回出席してもらいたい方に加え、年間行事の議題に合わせて消防団、近隣の方、中学校の先生等参加メンバーを工夫し、会議がさらに実りあるものになることを期待する。
			(外部評価) 参加メンバーの日程調整が難しく、予定通りの開催にはなっていないが、地域の情報を得て、地域行事の敬老会や奉仕活動に参加している。災害時の対策について等活発な意見交換もされている。参加メンバーも介護相談員等、徐々に増えている。来年度は議題の年間計画を立てて、円滑な運営ができるよう工夫する予定である。	※	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。		
			(外部評価) 市から月1回介護相談員が来訪し、利用者の思いや悩みを聴いている。「ゆっくり買い物に行きたい。」という要望を教えてもらい、改善に活かしている。書類の提出時に市担当者とは顔見知りになり、分からないことは電話で相談できる関係にある。地域包括支援センター職員に広報誌を配り、ホームの理解を得るよう働きかけている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修や勉強会などで学ぶ機会があり、必要な人には活用できる体制ができています。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や勉強会で学び、理解と意識の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約、解約時には十分な説明を行い理解と納得を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置しているが、不満、苦情は直接スタッフに伝えてくれるかたもおられる。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月の報告書の送付や面会時の報告に努めているが、まだ不十分。 (外部評価) 家族と直接話す機会を少なくとも月1回は設けるため、利用料を現金集金にしている。家族の面会時には、担当者が利用者の暮らしぶりについて報告し、介護計画に反映させられるよう要望を聞いている。年5回発行の広報誌には利用者の活動の様子を分かりやすく掲載し、新入職員の紹介もしている。さらに手紙でも詳しく知らせている。	※	書類上の報告が主になり、なかなか面会時に直接話せる機会が少なく、いい機会を伺いたい。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会での意見や苦情は意見として受け入れている。 (外部評価) 意見箱を設置しているが、なるべく直接話してもらえよう、面会時には担当者が声をかけている。「食事の時、音楽を流したらどうか。」という意見を取り入れる等、運営に活かしている。年1回の家族会でも意見が出せるようにし、併せて第三者機関の苦情相談窓口も紹介し、玄関ロビーにパンフレットを置いている。	※	現在、家族会は敬老会の後に開いている。他にも家族が参加する行事が年に数回あるため、その際に家族同士で話し合えるよう、できるだけ多くの機会を設けていくことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のユニット会、2ヶ月に1回リーダー会を行い職員の意見を聞き、運営に反映されている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務調整できている。	※	スタッフ不足の場合は、他ユニットから応援に来てもらって調整できている。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動は行われているが、利用者にはダメージを与えないよう配慮された上での異動を行っている。	※	今のところ、利用者のダメージはないと思われる。
			(外部評価) やむを得ない理由によりユニット間の異動や離職はあるが、日常的にユニット間での行き来があり、他ユニットの利用者と話すことも多く、担当者以外の職員とも顔馴染みの関係にあるため、今のところ利用者にはダメージは見られていない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々のレベルに合った研修計画に沿ってトレーニングを受けている。	※	各自、計画に沿って研修に参加している。
			(外部評価) 管理者と主任が県社会福祉協議会の研修内容を見て、職員の育成のため、段階に応じた研修の年間計画を立てている。関連グループ内での勉強会にも参加している。ホーム内でも2か月に1回、ユニット持ち回りで勉強会を開いている。勉強会は、外部研修を受けた職員の報告会も兼ねている。運営者は、研修に参加し易い体制を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 交流機会はあるが少ないように思う。 (外部評価) 関連グループ内の勉強会が月1回開かれ、同業者との交流の機会がある。また、県グループホーム連絡協議会の東予支部の研修や県社会福祉協議会の研修等外部研修に出かけた際にも他事業所の職員と情報交換している。	※	ホームは県グループホーム連絡協議会の相互研修への参加を検討している。関連グループ以外の事業所との交流により、自身のケアのあり方を振り返り、他事業所の取り組みを知る機会が得られることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 親睦会やスポーツなど希望する人は参加しており、少しずつ取り組みがなされている。	※	ストレスのある職員に対し、スタッフ間で話し合い、問題解決につながるケースもあった。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 個々の能力に合った研修の参加や勉強会の参加で、向上心が持てるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用者と話す機会を作り、受け止める努力をしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会時などに話す機会を作り、受け止めるよう努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 要望があれば、その都度相談にのり対応している。	※	現場のスタッフでは対応しきれない相談は、上司や管理者に相談し、対応している。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 事前に家族等と充分話し合い、相談している。 (外部評価) サービスを開始する前に、利用者宅を訪問している。本人や家族に見学に来てもらったり、ホームの行事に誘ったりしてホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。また、入居後1か月ぐらいは特に目配りし、利用者が新しい生活に慣れるまで、安心して生活できるよう家族に度々面会に来てもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 利用者と一緒に過ごすことで、気分転換させてもらう事もある。 (外部評価) 煮物の味付けや戦時中の話など、利用者から教わることも多い。昼食時、冗談を交えながら楽しく会話し、職員と利用者が笑いあっている場面があり、日々の暮らしの中で感情を共有する場面が多いことが推察された。利用者がいるだけで心が癒されると語る職員からは、支えあう温かい関係が感じられた。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時などに利用者の現状を説明し、問題が生じた時など、互いに相談する機会を作り、関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の今までの生活を家族さんから聞き、深く知る努力をし、また、ホームでの生活を説明している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者によっては、なじみの人が面会に訪れてくれている人がいる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 仲の良い利用者同士はできるだけ一緒に過ごしてもらっている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居後は、職員個人での付き合いになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 心がけているが、スタッフのペースになりがち。 (外部評価) 暮らしの中での会話を多くし、利用者の思いや意向を把握している。把握した思いや意向は、日々の記録とは別に作られたオンリーワンメモに記録し、職員間で共有している。また、センター方式のアセスメントシートへ転記、蓄積している。本人からの把握が難しい場合は、家族、ケアマネジャー等利用者のことを知る関係者から情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のケアカンファレンスや、状況に応じ、その都度介護計画の見直しを行っている。 (外部評価) 担当者が本人との会話から把握した意向や家族の要望を聞きながら、利用者本位の介護計画を立てている。それを基に、月1回のユニット会で意見を出し合い、最終的に各ユニットの計画作成担当者が介護計画を作成している。さらにより本人本位の介護計画になるよう、センサー方式を取り入れている。	※	家族を交えた介護計画の作成が必要。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 出来ている。 (外部評価) 毎日モニタリングし、介護計画の課題を評価し、ケア行動計画・チェック表に記録している。また、ケアに関わった職員がケア行動計画実施記録・特記事項に書き、見直しに活かしている。状態変化が生じた場合は、月1回のユニット会で話し合い新たな介護計画を作成している。変化が見られない時は、3～6か月継続している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 生活記録にて毎日の様子を記入し、介護計画の見直しに活かされている。	※	個々の特記事項については「オンリーワンメモ」に記入している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 支援は行えている。 (外部評価) 買い物、友人に会う、家に帰る等、利用者一人ひとりの要望に応じ、できる限り柔軟な支援をしている。特に、帰宅願望のある方には週1回帰宅できるよう支援している。帰宅中はこまめに電話で本人の様子や気持ちを確認している。他にも通院介助やドライブ、図書館の利用支援、銭湯での入浴等様々な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアの受け入れや、公共機関（消防）の協力を受けている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 支援できている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議などの場において、地域包括支援センターとの関わりを少しずつではあるが築けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的な往診があり、主治医との連携は築けている。 (外部評価) 利用者の馴染みの医師との関係が続くよう、町内の複数の病院と協力体制を築いている。週1回の往診の他に、病気で受診する場合は家族に電話報告した上で受診介助している。遠方の病院に受診するような特別な場合は家族に同行してもらっているが、スムーズに受診できるよう情報交換を的確に行っている。誕生日の健康診断も行っている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 支援できている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員がおり、日常の健康管理支援ができています。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 出来ている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 終末期ケアは取り組んでいない。 (外部評価) ホームでは、利用者一人ひとりの持てる力を発揮できるよう、役割を持って共同生活を営むことを大切に考えている。また、重度化した場合、ホームの一般家庭用浴槽での入浴は困難であるため、入居前の見学の時点で、重度化した場合や終末期のケアには取り組んでいないことを説明し、本人や家族に納得してもらっている。	※	教育と体制

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 研修に参加するのみで、取り組めていない。	※	今後、職員の意識と体制作りをわ検討
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分な話し合いが行えているし、本人にとって一番良いと思われる住み替えが実施されている。	※	サマリーで情報交換も行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) プライバシーは守られている。 (外部評価) 居室への入室の際は本人に声をかけ、了承を得ている。また、本人が思っていることを否定せず、上手に話を合せている場面が見られた。ホームページや広報誌へ利用者の写真や名前が載ることについては、家族から同意を得ている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者のレベルは低下しつつあるが、自己決定できる能力の発見に努め、個々の能力に合った支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々に合ったペースの把握に努め、できるだけその人の希望にそって支援を心がけている。 (外部評価) 活動的なホームで、毎週のようにユニットごとに特色のある行事を実施しているが、体調等で参加したくない利用者には無理強いをせず、他ユニットの職員の協力を得て、休んでもらっている。日当たりの良い場所で居眠りする、玄関先で草引きをする、移動パン屋のパンを買う、家族と玄関で話すなど、それぞれ自分のペースで過ごしている。		さらに細かく、できる事とできない事の確認
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 地域の散髪屋さんとパーマ屋さんが、必要時に来てくれている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員も利用者も一緒に食事をしている。一緒に準備や後片付けも行っている。 (外部評価) 一緒に食事の下ごしらえや片付けをし、会話を楽しみながら自分のペースで食事している。中庭の畑で利用者が収穫した野菜を食材にしたり、希望する外食に出かけたり、中庭でバーベキューを楽しんだりしている。また、おせち料理や七草粥等行事食を出し、季節感を味わってもらう工夫をしている。好みにも配慮し、調理法を工夫している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒の好きな人には行事時や希望時に楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄パターンの把握に努め、気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 本人の意思の確認をし、できるだけ毎日入浴できるよう働きかけているが、固く拒否する人には無理強いしない。 (外部評価) 基本的に毎日入浴できるよう支援している。また、入浴の時間帯は午後の暖かい時間・夕方・夜・就寝前と希望に応じている。浴槽がゆったりしており、仲の良い利用者同士で入浴することもある。入浴拒否のある方にはタイミングを見て声をかけたり、ドライブに誘って銭湯を利用するなど、強要しないで入浴してもらうよう支援している。		体力的に入浴の困難な方には希望に沿わない時もあるが、説明し、理解を求めている。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 眠れない利用者には、無理強いせず、和室で休んでもらったり、添い寝したり支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個々の能力や生活歴を知った上での支援を行い、家事業務の手伝いなど、気分転換や、気晴らしになるよう支援している。 (外部評価) 食事の下ごしらえ、食器洗い、配膳、洗濯物干し・たたみ、金魚の餌やり、買い物、野菜の収穫、草引き等、利用者ができることを見極め、役割を持つことで生き生き過ごせるよう支援している。花見、歌謡ショー、ゲートボール大会等のホーム全体の行事に加え、ユニットごとに楽しみごとを企画し、外食、レクリエーションを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 可能な人のみ行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) つきに1度は必ず外出で楽しんでもらえるようにしており、天気の良い日は日光浴も欠かさない。 (外部評価) 日光浴も兼ねて毎日のように広い中庭に出ている。冬場は、寒さのため利用者も散歩を休んでいるが、気候のよい時は近くの体育館までが散歩コースになっており、車いすの方も一緒に散歩に出かけている。また、食材の買い出しに行ったり、ドライブも楽しんでいる。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 個別の外出支援は少ない。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙は来るが、利用者から出すことはない。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) お茶の接待で、訪問者と楽しく過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は全員身体拘束を理解しており、行っていない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 鍵をかける事はない。 (外部評価) 外出傾向のある利用者が外出したくなる時は様子を見て察知できるため、記録等の事務を利用者の側で行い、台所も対面式で見守りができるよう工夫している。外出時は利用者の気持ちを尊重し、納得のいく支援をしている。利用者の行動パターンを十分把握し、玄関を出てから玄関先の草引きに気が変わる利用者をさりげなく見守る場面があった。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 安全を優先し、常に所在確認をしながらケアしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 取り組んでいる。	※	入居者の動きに応じて椅子なども取り除いている。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 研修や、救命救急の講習を受けている。		定期的に受講
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を定期的に（半年に1回）実施している。 運営推進会議で緊急体制の話し合いも行っている。 (外部評価) 消防署とホームの自衛消防隊による消防訓練をしている。災害時のマニュアルに沿って夜間も想定して利用者と一緒に実施している。避難場所は地域福祉センターになっており、今までにも市に受け入れ要請して台風時に2回利用している。運営推進会議で災害対策について議題に取り上げ、地域の人と意見交換し、再確認している。	※	近所には地域の消防団長もいるので、運営推進会議に出席してもらおう等して地域の協力が得られるような体制づくりをしていくことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) スタッフ個々に研修等で学び、対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い日々の変化の発見や、必要な人には時間を決めて測定し、異常の早期発見に努めている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人個人の薬票はファイリングし、確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 個々に合ったセンナ茶で予防、対応できている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、全員口腔ケアできている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ひとりひとり摂取量や水分量は記録し、把握している。 (外部評価) 水分量を時間ごとに細かくチェックして記録している。水分量を確保できるよう、汁物・お茶・排便を促すセンナ茶等を出している。食事は主食と副食に分けて毎食摂取量を記録している。また、嚥下機能の低下している方には刻み食を提供している。嚥下機能の維持向上のためリハビリ体操を熱心に行っている。	※	10日分の献立をあらかじめ立てておく等、栄養バランスにも配慮しているが、年に2～3回は栄養士にチェックしてもらい、専門的な立場からアドバイスを受けることを期待する。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルを作成し実行している。	※	インフルエンザワクチンは職員も入居者も全員接種している。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 定期的に消毒し、食中毒予防対策をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周辺に草花を植えたり、季節毎に飾りや置物をして工夫している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 行えている。 (外部評価) 玄関ロビーに雛人形が飾られ、書初めや手作りカレンダーも季節感を出している。ユニット入口に掲示している行事の写真を見て、楽しかった思い出を話題にしている。畳コーナーにはコタツが置かれ、くつろいだり、洗濯物をたたんだり、演芸ボランティアの舞台としても使われている。男性利用者用に使い易い便器も設置している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビを観たり、ベランダ、ウッドデッキなど自らが自由に活用している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が持って来られた物を使用している。 (外部評価) 仏壇、ドレッサー、筆筒等使い慣れたものを持ち込み、家族の写真やゲートボール大会の賞状を飾っている。冷蔵庫を置いて好きな飲み物を入れている方、転倒防止のため床布団にしている方等、それぞれに合った居室になっている。居室で安全に過ごせるよう、多くなりすぎた衣類をホームで管理する等整理整頓に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 24時間の換気や、室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 工夫している。		バリアフリー 手すり
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 不十分。		居室の表札や、トイレの表示などもしている。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭やウッドデッキで自ら好きに過ごしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	暮らし方は掴めていても、思いや願いは不十分。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	食事やおやつの時間にゆったりと過ごす時間を作っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	ほとんどの利用者はスタッフ支援の基での暮らしになっていて、自らのペースで生活している人は少ない。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	支援することで、楽しく生活できている場面がみられる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	なかなか自ら訴えることの出来る利用者が少ない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	充分対応出来ていると思うが、不安の有無は確認困難。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	支援は行っているが、安心してしているかどうかの確認は困難。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	要望や意見のある家族は少なく、なかなか信頼関係が築きにくい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	家族の訪問がほとんどである。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	会を重ねるごとに増えつつある。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き活きと働けるよう職員間で様々な問題に対し、話し合い、解決できるよう努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	満足していただけるよう努力している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	信頼関係ができていない家族は満足していただいていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・毎月、利用者全員で外出し、楽しんでもらっている。
- ・仲の良い利用者同士と一緒に入浴してもらったり、居室で談話してもらったりしている。
- ・スタッフと利用者が共に楽しみ、同じ時間を共有できるようケアに取り組んでいる。
- ・季節を感じる行事や食事の楽しみを共有している。
- ・面会に来られた家族に日々の暮らしについて細かく説明し、解決できない問題には協力を求めている。
- ・気持ちよく挨拶を心がけ、笑顔で毎日接するようにしている。
- ・利用者と同じ視線で接するよう心がけ、介護する側、される側の判別をしないケアに取り組んでいる。